

令和2年度 第3回 三原市地域公共交通活性化協議会 会議概要

日時：令和3年3月19日（金） 10：00～11：30

場所：三原市役所 3階 会議室

出席者：16名（5名）

内容：

1. 開催あいさつ

2. 報告事項

(1) 令和2年度路線バスの運行状況の検証について

[事務局から資料1により報告]

各委員：収支率の設定は、敬老優待利用の場合、通常運賃に戻して算出しているのか。

また、河内・甲山線はH31年が収支率17.0%であり、以前から収支率は高くない。世羅町や東広島市など関係する市町の意向もあろうが、利用状況を把握し、利用促進などを検討してもよいのではないか。また距離が長く経費が高いため、少し系統を短くする等の工夫の余地はないのか。三原市にとって、この路線がどういう位置付けかといった検討は必要と思う。

深線は高水準であり、R2年に路線収支率が増えている。こういった路線は通学を取り込む好事例であり、要因を知りたい。優良事例は要因を調べて、他の路線に横展開することも可能かと思う。

また、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う交通事業者への支援について、それぞれの自治体が臨時交付金で補助をしたり、設備投資の後押しをされている。三原市でも交通事業者・市民の皆さんと連携して公共交通の維持に努めていただきたい。

事務局：敬老優待について。差額運賃は高齢者福祉課、社会福祉課が乗り込み調査をして補填金額を決め、バス事業者に支払っている。経常収益は、補填金が含まれた計算となっている。

河内・甲山線について。収支率が低い状況であり、事業者として廃止検討をしたいという話をいただいている。但し、世羅町・東広島市を連絡する広域バス路線であるので、最良の方法をバス事業者・関係市町と検討してより良いものにしたい。

深線について。事務局でも要因を把握した上で、他の路線に反映できるよう検討していきたい。

各委員：コロナの影響で事業者としてもかなり厳しい状況である。国・県・各自治体より、多大なる支援をいただき、なんとか事業を継続している。

ただ、ワクチン等により落ち着いた所で、元の利用状況にまでは戻らないだろうというのが交通事業者各社の認識であり、危機感を持っている。

公共交通の収支率はご覧の通りかなり落ちており、このままでは衰退していくことも考えられる。できるだけPRして利用者を増やしていきたい。皆様にもぜひご協力をお願いしたい。

(2) 運転免許証の自主返納制度の周知について

[事務局から資料2により報告]

[質疑応答]

各委員：チラシの配布方法について、自主返納支援は三次市でも取り組んでおり、返納者にアンケートをしたところ、家族や病院の先生に返納を勧められたという方がおられた。家族や医療関係者にチラシを渡して啓発することも効果的と思う。

チラシの回覧やホームページに載せて終わりではなく、高齢者の集まりやイベント時に、直に赴いて説明し、周知・PRすることも必要である。

また、三原市一円といっても、免許証を返したくても返せない地域、返しやすい地域がある。返納者の住所をプロットしてみると、公共交通が充実している地域の人が多い傾向がある。そのため、公共交通が充実している市中心部を重点エリアとして、公共交通の利用促進と合わせてこういった取組を展開していければ良い。

イオン三原が特典に入っているため、そこにチラシを貼るなどしてPRする方法もある。今後の第2弾、第3弾の展開を期待したい。

返納の状況についても、警察より情報提供していただければと思う。

各委員：令和2年度は、どのくらい返納になったのか教えてほしい。

田舎では、農業で軽トラ等を使う場合も多いが、町内会でも昨年3名が介護施設に入るなど歳を取っている。そのため老人会でも、免許返納を勧めていきたい。

事務局：三原市管内では、平成30年は70歳以上では280名、平成31年は412名、令和2年は368名が返納している。

会長：高齢者の返納は増えている。やむを得ず利用する方もいるかと思うが、どういう形で返納を促進していくか、皆さんで考えていただきたい。

3. 協議事項

(1) 久井地域におけるデマンド型乗合タクシーの運行（案）について

[事務局から資料3により報告]

[質疑応答]

各委員：現在月～金の実質1日2往復であるが、次は月・水・金の隔日運行で1日5、5往復となる。久井の診療所に通院する方は、火曜日・木曜日は大丈夫なのか。

また、現在収支率が低いのは、朝の1便目は多いが、2便が極端に少ないことが原因かと思う。新しいダイヤでは午後も万遍なく運行されるが、利用実態を鑑みると午後もこれほど必要なのか疑問である。ダイヤ設定理由を教えて欲しい。

久井地域は広いが、エリア設定や車両の運用の仕方を教えて欲しい。

事務局：今の久井ふれあいバスが5つの路線に分けて1週間に2日の運行であるのに対して、今度は週3日であるが、全ての地域で利用できるようになるため、利用機会は増えると考えている。アンケートでも月水金の利用意向が高かった。

午後の便数設定について、ふれあいバスよりは利用対象者が増えること、また今は帰りの時間に路線バスと接続していないが、今度の乗合タクシーは三原市内にも甲山方面にも接続するため、午後に路線バスで帰ってくる利用形態が増えるこ

とを期待している。またアンケートによると、利用しやすい時間帯では 11 時・12 時の回答が最も多いが、15 時・16 時も比較的多い結果であった。ダイヤは状況に応じて適宜修正したいと考えている。

エリア分けについて北部と南部に分け、1 台ずつ配置する運用を考えている。

会 長：都合の良い時間というのは中々難しいが、まずはこの時間帯でスタートして、利用者が少ない所はカットし、多い所を増やすのが通例ではある。事務局で柔軟に対応して、住民の皆さんの利便性を確保するという事でお願いしたい。

各委員：今は名称が久井ふれあいバスとなっており、他の地域は「タクシー」となっているが、そこは変更するのか。

事務局：地域で愛称を決めてもらい、運行することになる。

各委員：住民にとってこのダイヤは良い。ただ大和ふれあいタクシーの場合、運転手の昼食時間がないということで要望があり、ダイヤから 1 行程外すという経緯があった。久井ではそういった意見は出なかったか。

事務局：今は 6 便目を 12 時、7 便目を 13 時 30 分と設定しており、ここで昼休憩をとってもらう想定としている。ただし、今のダイヤは拘束時間が長いため、状況をみながら時間短縮等を検討したい。

会 長：時間の縛りもあり、その間にどう運行していくのかは難しい。柔軟な対応をお願いしたい。内容について了承したということで、とりまとめさせていただく。

(2)一般乗合旅客自動車運送事業（大和ふれあいタクシー）の譲渡譲受について

[事務局から資料 4 により報告]

[質疑応答]

会 長：譲渡人、譲受人が明記されており、そのみの変更ということである。内容について了承したということで、とりまとめさせていただく。

(3)令和 3 年度三原市地域公共交通活性化協議会 歳入歳出予算（案）について

[事務局から資料 5 により報告]

[質疑応答]

各委員：交通利用促進事業の時刻表作成・配布に関して、旧三原市内においては、事業者ベースで作成するため、こちらの事業としては本郷・久井・大和に同等の時刻表作成・配布するという理解でよろしいか。その上で、新聞折込という形態もあるが、新聞をとっていない家庭もあるため、広報紙配布のネットワークなど、他の手法も検討できないか。

航路利用促進に関して、航路マップを例年作成されているが、紙面が充てられるようであれば、フェリー等の海上交通だけではなく、方面別や乗り場等、陸上交通の情報も記載できればと思う。

計画推進事業の地域コミュニティ交通の導入見直し検討に関して、具体的に検討される地域はあるのか。あるいは導入済み地域のモニタリングを実施されるのか

事務局：本郷・久井・大和地域の公共交通情報配布について。新聞をとっていない世帯もあるので、そういう方には市の広報紙を郵送しており、その中に一緒に入れて配

布している。また支所にも置いて、取ってもえるようにする。

航路マップについて。これまでのものは航路図、ダイヤ、運賃のみを記載している。陸上交通についても掲載できるか検討したい。

計画推進事業について。今新しい導入の予定はないが、導入の希望も増えてきており、アンケート調査が必要になる。現在そのために予算を組んでいる。

各委員：高坂町では、福祉と交通について地域で考えており、免許返納はどういう方が多いのかなど、分かる範囲で研究している。ただし、街中と高坂は全く違う。公共交通が潰れかけているところで免許を返納すればとんでもないことになる。90歳以上でも運転しないと生活できない。家族に若い人がいれば買い物できるが、高齢者の1人暮らし、2人暮らしでは生活できない。バスだけではなく、福祉との関係も何かしたいと思う。

道路は良くなった。県道も4月に開通する。車だけは頻繁に通っているが、町の中はバラバラになりつつある状況である。また、佛通寺の観光シーズンは車が多く、バスが入りにくくなる状況になるが、日常はカラの方が多。

会議での皆さんの意見は大変勉強になる。4月以降もそれを地域に持ち帰り、月1回の合同役員会で提案をしていきたい。

会 長：それぞれの地域で様々な検討がなされている。地域に必要な制度があれば、どんどん採用し、市がその支援を行うことが大事である。この場はそういった情報を提供するものとして意義がある。それぞれの地域で他の地域での取組みを報告して、市に提案することも大変良い。今後ともよろしくお願ひしたい。

副会長：生活環境部の部長として申し上げる。

計画推進事業の取組でご質問いただいたが、地域コミュニティ交通の必要性について、三原市では北部中山間地域や離島だけが交通の利便性が低いというわけではない。旧三原市街地でも交通利便の低い地域がある。どのようなニーズがあるかわからないため、今回予算化をしている。

また議会から政策提言をいただいている中に、久井のデマンドと、世羅町への市域を越えたコミュニティ交通の運行がある。大和・久井町におけるニーズも確認している。それも含めて、その他の地域の検討と合わせてさせていただきたい。

熊原委員からお話があったが、三原市では、地域ビジョンを各地域が作成し、地域の方が地域のあり方を決めて経営する、という考えで地域づくりを進めている。その中で、地域のコミュニティ交通を含めてご検討いただき、市に相談してほしい。委員にご指摘いただいた資料1の河内・甲山線について。非常に収支率が低い路線であるが、東広島、本市、世羅町に跨り、3自治体のJR駅へ連絡するものとして運行している。三原駅方面へは中国バスが運行する甲山三原線があり、世羅町と三原市で維持していく必要がある。一方の河内・甲山線はJR河内駅への連絡という必要性がある。ニーズの量だけでは判断できず、関連自治体との調整も必要である。資料2ページに徳良河内線があるが、これは国道432号を河内・甲山線と同様に運行している路線である。区間の見直しを図る中で、利用率・収支率を上げる取組も、芸陽バスと相談している。存続の為に見直している状況ということをご認識いただきたい。

会 長：内容について了承したということで、とりまとめる。

4. その他

公共交通マップについて

[三原市公共交通マップ（配布資料）により報告]

[質疑応答]

各委員：大きさはA3の2倍程度になるのか。また配布方法はどこかに掲示するのか、それとも各家庭に届くのか。

また新年度以降、大学進学や仕事等で新しく三原市に来られる方も多いかと思うが、そういった方々に適切に配布されることが新規利用に繋がる。三原市中心部は交通が充実している。路線があることを知ることが公共交通を使って生活することに繋がるので、新たに転入される方にうまく届くようにしてほしい。また宮浦周辺の商業地で利用者が多いと聞いており、こういう箇所でも配布・掲示する方法もよい。図書館の写真を入れていただいているが、ポポロや主要な商業地等の写真を入れてにぎやかにしてもらっても良いのではないかと。作って終わりではなく、公共交通を使っていただくことが大事であるので、是非営業活動をしていただきたい。

また、行き先別の乗場等に「トモテツバス」とカタカナで書いてあるが、問い合わせ先には鞆鉄道株式会社と漢字のみなので「トモテツバス」と入れてあれば親切と思う。

事務局：大きさはA2サイズで作成する。

各委員：マップの表面の左下に、行き先として三原市役所があるが、乗り場は3番である。また、目的地の三原高等学校は、7番の本郷線に乗ると間違いではないが、先に2号線を通り、本郷駅を通過してその後三原高校になるので、1時間以上かかることになる。それなら三原・竹原線に乗って小泉病院で降りる方が早い。掲載内容を検討した方がよい。

各委員：久井ふれあいバスの記載について。10月からデマンドに移行するが、ここに挙げることで住民の意識が混乱するのではないかと。あえて挙げる必要があるのか、再検討いただきたい。

事務局：公共交通マップは4月1日時点の情報で作成している。4月には、まだ久井ふれあいバスが運行しているが、横に注釈として「令和3年10月からデマンド型タクシーに移行予定」と入れている。

各委員：注釈を大きな文字で表記するか、または久井ふれあいバスを落とされても影響はないのではないかと。

会 長：事務局で検討していただいて、また連絡していただきたい。

事務局で若干の修正をして、作成するというところでよろしくお願ひしたい。

5. 閉 会